

「事業名:災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」 2022年度補助事業の実績・成果

長崎大学（共同申請：福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学） 連携市町村：川内村、富岡町、大熊町、双葉町
 連携市町村との協定締結日：2013年4月（川内村）、2017年9月（富岡町）、2020年7月（大熊町）、2021年12月（双葉町）
 現地拠点：福島県双葉郡川内村大字上川内字小山平15-1/富岡町大字本岡字王塚622-1/大熊町大字大川原字南平1717/双葉町大字長塚字町西73番地4

事業のポイント

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町、大熊町や双葉町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらに国際放射線防護委員会や国際原子力機構といった国際機関と連携して世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築します。

今年度の活動実績

1. 川内村、富岡町、大熊町に加えて双葉町において、「住民と行政、専門家が一体となった原子力災害から復興モデル」の活動を本格化しました。
2. 「拠点報告会」を開催し、長崎大学や福島大学、福島県立医科大学、東日本国際大学の活動の報告をしました。また、長崎大学が拠点を設置している川内村、富岡町、大熊町、双葉地の首長との座談会を行い、各自治体におけるこれまでの取組、現状と課題、そして大学に期待することをテーマにディスカッションを行いました。
3. ウクライナ避難民学生を対象とした「福島県復興視察研修」を浜通りで開催し、地域の復興の重要性を学んでもらいました。動画コンテンツ「長崎大学×ウクライナ留学生」を製作、セミナーの教材として活用すると同時に動画サイトにも公開しました。（https://www.youtube.com/watch?v=n9_OHmL5jSU）
4. 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学と連携して、福島県下の学生を対象とした医療学、環境放射能学や福島の復興学に関する集中セミナーを浜通りで開催し、災害・被ばく医療科学分野の知識に加え、復興の現状を積極的に学ぶ知の交流を深めました。
5. 長崎大学・福島県立医科大学の大学院生（特に留学生）を対象に「原子力災害の復興に関する国際研修コース」を浜通りで開催しました。研修コースにはICRPやIAEA等の国際機関をはじめ、海外の大学、研究所の計6か所より専門家が参加し、浜通りが抱える課題についてディスカッションを行うなど連携を強化しました。詳細については、研修専用Webページ「原子力災害の復興に関する国際研修コース」を作成、公開しました。（<https://nagasaki-u-seminar.jp/>）
6. 原発立地、および周辺自治体の教職員や関連企業の職員を対象とした「原子力災害復興学セミナー」をオンラインで開催し、福島第一原子力発電所から放出される処理水への理解を深めていただきました。



今年度の成果

1. 上記のような取り組みを行うことで、福島県浜通りを「災害・被ばく医療科学」のグローバル人材を育成し、「復興知を学ぶ」知の交流拠点にするという目標を発展させることができました。今後もプログラムコンテンツを更に充実させ、浜通りでの人材育成を未来に繋ぐことに尽力していきます。